

保育内容「環境」の指導の一事例 —話し合いと発表を重視し、個と集団を高める活動—

平松由美子
Yumiko HIRAMATSU

1 はじめに

本学で講義を始めて2年目を迎えるが、これまで実施した講義と学生の学びの状況を振り返ると、指導者から学生へ一方の講義を実施した場合、講義内容への興味・関心を持ちにくく、ともすれば思考が減少し、主にただノートを取るだけの活動になり、理解の深まりが認めにくい状況である。

そこで、文科省の言うところのアクティブラーニングの考えを取り入れ、個と小集団、そして、クラス全体の大集団での活動の深まりを促す授業の展開を試みることにした。これにより、授業への参加意識を高め、より深い理解となることを期待した。

2 研究仮説

各講義において課題提示の後、次の講義の展開のとおりステップ1～3の手続きを取り、個と集団の力を生かして活動を深めることにより、学生の授業への参加意欲を向上させ、課題についての理解が促進される。概略を図解したものを示す。

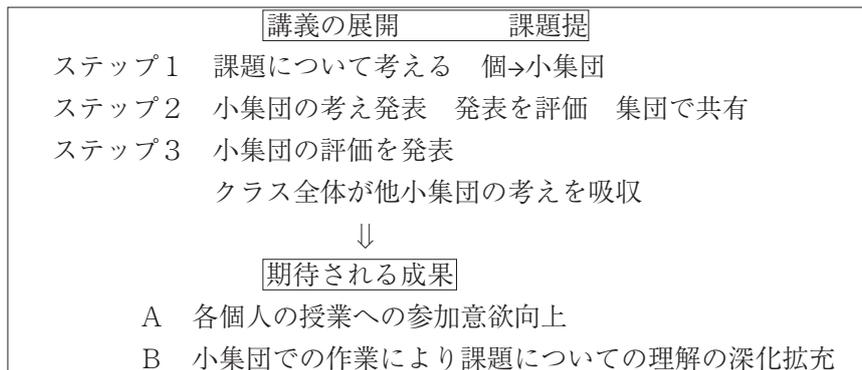


図1 研究の仮説

本年度の保育内容「環境」の授業は、「小集団で話し合い、発表をすることで理解を進める」ということに重点をおき、次のステップ1～3のプロセスを進める。

ステップ1では、課題についてまず個人で考え記述する。その後、小集団で協議、参考資料などを参照して考えをまとめる。

ステップ2では、課題ごとに各小集団で考えをまとめて発表する。他の学生は発表内容を評価しながら聞き、記録を残す。このようにして、クラス集団が考えを共有し、知識や考えの幅を広げる。ステップ3では、個々の学生が発表内容について講評する。講評を聞くことで発表者は自分たちの活動や考えを振り返り、発表を聞いたクラスの学生一人ひとりには自分の考えの幅を広める。以上の活動により一層の理解が進む。

以上のステップで講義を展開し、考え、書く、聞く、話すなどの活動を盛り込むことで次の2点の効果を期待した。

- A：各個人の授業への参加意識を高め、集団での作業により意欲的な参加態度となり、
- B：小集団での作業により課題についての理解の深化拡充が進む

3 具体的な講義の展開例

(1) 講義名：保育内容「環境」 2年生A・小特・金2限、B・木4限、C・金1限

(2) 講義内容の例

次に、本報告で取り上げた講義で、典型的な展開例を1～3に示す。

① **事例1**：大学キャンパス内を散策することで、動植物の観察と植物採集を実施する。その後、調べ学習と保育現場で実践できるような学びにつなげる。

ステップ1 植物を採集する。採集した植物を押し花にして保存する。名前や特徴などを調べ記録する。観察した植物や採集した草花を用いた遊びを調べ、遊び方をまとめる。

ステップ2 自宅学習した押し花及び調べた内容を小グループで見せ合う。草花遊びの事例を報告し合って自分の知識をまとめる。

ステップ3 小グループで代表の事例を取り上げ、一つの遊びとしてまとめてクラス全体へ発表し合い、クラス全体が他の小グループの調べたことを知る。

② **事例2**：環境に関わる具体的な課題について、環境構成、ねらい、教師の援助など指導内容をグループで考え構成する。

ステップ1 授業のねらい、資料の説明を聞く。具体的な課題について、ねらい、内容、配慮事項や教師の援助などについて個人で考え講義ノートに記述する。その後、5～6人の小グループになって意見を出し合い、一つの考えにまとめる。

ステップ2 小グループの中で発表者と別の小グループの中で講評者を決める。発表者は小グループでまとめた内容を全体の場で発表する。発表グループ以外の聞く人は発表の内容を講義ノートに記録し、講評や感想を付け加える。

ステップ3 担当小グループの講評者は、発表の内容について良いところを中心にコメントする。全体の学生一人ひとり、各自がそれぞれの課題について保育実践に活かせるよう理解する。

③ **事例3**：「環境構成と教師の援助 - 選んだ遊び及び一斉活動 -」のテーマで、小グループが選んだ課題について協力して指導案を作成し、発表する。

ステップ1 小グループで話し合い資料を作成し、配布資料を印刷して準備する。

ステップ2 小グループのメンバー全員で発表や説明、ロールプレイを行い、内容を伝える。講義ノートに各小グループの発表に対する評価を示された項目で記述する。

ステップ3 担当小グループは記述した評価内容を伝え、他の小グループは発表や講評から学ぶ。良い点に加え、改善点や質問事項を伝えることとし、誰でも質問に参加する。

小グループの発表を聞く際の講義ノートには、他小グループの発表を聞きながら次に示す評価項目に従って自分の考えを記録する。内容を次に示す。

表1 評価項目：実施のアンケート2

(1) グループの発表を次の観点から評価しなさい。

◎資料の内容：

- 1 保育活動の意義があるものか。工夫した活動であったか。
- 2 環境構成上の意義はどうであるか。
- 3 ねらいは年齢、発達、季節などに適したものであるか。
- 4 教師の援助・配慮事項は適当であったか。

★発表：

- 1 発表の声・速さはよかったか。よく伝わったか。
- 2 資料はねらいや教師の援助などの文章表現はよかったか。物的環境の記述があるか。
- 3 グループみんなが協力して作成したものを分担して発表したか。1人が行ったか。

○内容が伝わったか：

- 1 十分伝わってきたか。
 - 2 伝わりにくかったことはあるか。
- (2) 発表から学んだこと、学びや自己の変容について書きなさい。

4 実施したアンケート

(1) 最終講義で実施のアンケート

最終講義で14回の講義の中で印象的な講義及び自分の学びと変容について記入する。

表2 実施のアンケート1

- 1 印象的な講義についてと、あなたの学びや変容、課題をまとめなさい。
 - (1) 14回の講義の内容で、印象的と思った講義を選び内容を書きなさい。
 - (2) 選んだ講義であなたは、何が得られたと思いますか。
 - (3) あなたの今後の課題や今後さらに勉強したいことをまとめなさい。

(2) 12・13回講義の小集団での発表及び日々の講義ノートのまとめから

グループ発表の講義ノートには、他の小集団の発表を評価する内容項目に従って自分の考えを記録する。また、発表を聞いての感想と他の小集団から学んだこと、さらに自分の成長、心情や行動の変化についても省察して記述する(表1)。毎回の講義ノートのまとめ欄に記入する。

5 アンケートの集計結果

(1) 印象的な講義の内容と選択した人数

表3 講義の内容

合計117人

講義の内容	人数(人)	%	
①キャンパス内で植物や小動物などを散策する	48	41.0	
②グループで課題について資料作成し発表する	32	27.4	小集団で実施したことの合計 40.2
③グループで話し合い課題について考える	15	12.8	
④課題の中で印象的だった具体的な項目 図形、安全、砂遊び、事例検討、花や野菜の栽培 標識、数量、動植物などのテーマ	22	18.8	

(2) ①キャンパス内の自然を探しに行く講義についての記述

- ・指定された葉っぱや植物をグループで探したり採集したりして確認し合うことで、身近な環境で知らないことがたくさんあることに気が付いた。また、子どもの目線で見ると、たくさん花や草が見えた。
- ・採集した草花を押し花にして講義ノートに貼り付け、名前や特徴など知らないことを調べ友達と話し合うことで知識や学びを得ることができた。
- ・植物採集したものを使った遊びを考え、指導を考えるのが楽しい。
- ・何気なく見ている植物を観察することで、葉の色形、その物の由来などが分かって楽しい。座学だけでなく、実際に体を動かして学ぶことが大切だと感じた。実際に触れて楽しく学べた。
- ・今まで気にもしていなかった草花に関心をもち、見たり名前を知ったり自然に興味を持つようになった。

(3) 1～3ステップの活動を取り入れた講義についての記述

- ・自分では思いつかなかったねらい・内容、環境構成の留意点、配慮事項などを、グループのみんなや、他のグループの人たちから学ぶことができ、より広い視野から考える力を得られた。
- ・自分たちで考え、遊びを発展させていく力が付いた。

(4) 自由記述

印象に残った講義から得た学びを自由記述から、個人の学びと小集団での学びの2点に整理した。

①個人の学び

1) 個人の参加意欲・心情・態度（書く、話す、発表、協力）

- ・グループのみんなと話し合っ、自分だけでは気付かないことに気付けた。
- ・今まではあまり考えが出てこなかったが、グループ活動で考えやすく、気付きやすくなった。
- ・必要なこと等を広い視野で柔軟に考えることができるようになった。
- ・授業前半に比べたら、ねらいや年齢に適した遊び、教師の配慮などがきちんと考えられるようになってきた。
- ・他の授業で習ったことを活かす。習っていないことでも意見を出し合うことの大切さを学んだ。
- ・自分から声をかけにくかったが、自分も声を掛けながら資料まとめを進めることができるようになった。
- ・みんなの前に出て発表することで人前で話すのに慣れてきた。
- ・保育はしっかりと計画で実施されていることがわかり、心情の変化があった。
書くコツをつかんだ気がする。何を書いたらよいかすごく悩んでいたが、すらすらと文章が書けるようになってきた。
- ・だんだん慣れてきて、みんなのおかげで自分もちょっとずつできるようになってきた。分担して読むことで協力して発表することができた。
- ・違うんじゃないかなと思っても言えなかったけど、思うことを発言できるようになってきた。
- ・自分が考えただけでは十分でなく、他の人の意見を取り入れることでより良いものになると、自分の中での考え方も変わった。

2) 次への課題

- ・一生懸命考えて作成したのでメンバー間で共通理解が図れていても、仕上がった資料を見ると疑問がでてきてこれで大丈夫か心配になる。誰が見てもわかりやすいように作成する力を身に付けたい。
- ・子どもたちが活動しやすくなるために教師はいろいろな方向から様々な場面を考えて配慮したり、環境を整えたりしなければいけないと改めて感じた。ボランティアに行ってもっと学びたいと思った。
- ・授業を進めていくうちに教師になるという自覚がだんだん大きくなってきた。

②小集団の学び

1) 課題の内容の理解（分かった、書ける、理解できた）

- ・自分たちが発表をすることもよい経験だが、他の発表を聞く姿勢も大切で、評価をしてくれ、ほめてもらえ、アドバイスをもらえることで次の活動につながる。
- ・他のグループの発表を聞き、自分だけでは考えられないようなものも多くあり知識がたくさん蓄えられた。それを活用していきたいと思った。
- ・グループでトンボの製作をすることになり、いろいろなアイデアを出しあってよく調べてストロートンボに決定した。ストローを吹くと飛ぶものになり、遊びへと展開できるものであった。1人では気付かなかったがみんなでしたから気付けた。
- ・初めは他のグループの人のすごいところが見えていて真似しようと思って来ていたが、最近は

他のグループの足りないところやこうしたらよいということが見えてきた。

- ・どんな時に子どもたちがどんな様子なのか、教師の援助するタイミングがいつなのかに気付くことができた。
- ・資料作成では、自分の知っていることの中で考えることになり限られたものになっていたが、グループの人の話を聞いたり発表を聞いたりする中で、さらにいろいろな考えを知ることができた。
- ・最初の内はすごく悩んで時間がかかり苦労していたが、発表の資料作成ではこの授業や他の授業でも何回も書いてきたおかげですぐ思いつき、グループのみんなでどうしたいか話し合って書き上げられるようになった。
- ・他の人やグループの好評を聞いてどこに注目すればよいか分かり、疑問や改善点に気付けるようになってきた
- ・授業の技術だけでなく、話し合うということもできるようになって、すぐ抵抗なく意見を出し合い、良い意見をまとめ上げられるようになった。
- ・グループのみんなで分担して読むことで協力して発表することができた。また、みんなで協力してやったことでいろいろな考えを学ぶことができた。

2) グループで行うことの配慮

- ・資料の作成や発表の準備では、メンバーが集まれる日が合わず調整してみんなで考えながらやった。
- ・よい評価も改善の評価もAクラスならすごくお互いのことを考えて言い合える良いクラスだ。
- ・資料づくりが発表の直前になってしまったので余裕をもって準備することが必要だ。
- ・他のグループの発表を聞くと何を書く必要があるのか、また足りないところなど、自分たちが考えた時には気が付かなかったが、他の班のを聞いて気付くことが多かった。
- ・他の班から自分たちの発表への意見やアイデアをもらい、もう少し考えればよかったと思った。
- ・みんなの準備に参加できなくて残念だった。
- ・班の発表では課題にあるように分かりやすく伝えるように発表することを心がけた。

6 考察

(1) 大学キャンパス内散策の授業

アンケート結果5の(1)を見ると、一番印象的な授業は、大学キャンパス内散策で41%の学生が選んでいる。このことは、教室から出て開放的な自然の中で植物観察、採集、小動物や鳥を観察、雲や風・光を感じるなどを体験し、採集植物を押し花にしたり、名前を調べたり遊び方を考えたりしたことが、授業への参加意欲を向上させ、仲間と楽しく学ぶことができたと考える。環境の授業で取り扱う内容については、学生自身が活動し感動体験をし、学ぶ意欲をもって取り組み、知識を得ることの喜びが持てるようにすることが必要と考えられる。

(2) 小集団での学習

同じくアンケート結果5の(1)から、グループで課題について資料を作成し発表する授業の27.4%、グループで話し合い課題について考える授業の12.8%を合わせると、40.2%がグループで活動する進め方が参加意欲と作業効率を上げてくれるのでよいと評価している。テーマを決めてねらいや内容、環境の準備、配慮事項を考える課題は、各学生個人ではなかなか考えられないが、小集団になると話が出やすくメンバーと一緒に学ぶことで安定して授業に取り組み、課題理解が進み記述量が増え、内容が次第に充実してきた。

学生個人については、落ち着いて考えられ、考えを記述することに慣れ、発表することにも抵抗が

なくなり、その内容も的確に発言でき、話し合いと発表の活動を重視したことで、個の成長と集団で活動することの関係が調和しながら、各学生個人が取り組むことの意欲へとつながっている。

(3) ステップ1～3を辿ることによる講義への参加意欲

本報告書で取り上げた講義では、学習課題を提示した後、ステップ1ステップ2ステップ3を辿ることが特徴である。講義を展開するときにステップ1、2、3の過程を辿ることにより、一人ひとり学生がまず一人で考えてまとめ、次に、自分の考えを持った状態で小集団で考えをまとめ、小集団でまとめたことを全体に発表することになる。そして、ステップ3で全体からの評価を受け、発表に対して聞かれた質問や評価、感想を参考に自分で考えをもう1度まとめ直す。

このようなプロセスで講義を進めたことが、学生にとって参加しやすい授業となり、学生が意欲的に講義に参加できたことがアンケートの結果に認められる。ステップ1の個→小集団で考える過程は、小集団の力で考える活動が進み考えやすくなったという記述も認められる。

今まではこういうステップ1、2、3を辿る経験をしたことがないのか学生たちは、アンケートの感想から自信がついたというもの、一人ひとりが考えてそれを小集団で話し合うことで考えたことが発言でき自分も声を掛け合いながら話し合いに参画できるという喜び、グループの考えを発表するのて話す経験を積んだ、そして、他の人から意見をもらうという経験が自信につながってきている。

ステップ1,2,3を意識して授業することが、学習意欲につながることもあったが、意欲を深める以外に、学習スキルである記述する力、評価する力、資料をまとめる方法、発表技術などの各技術の伸長につながっている。また、小集団で活動することでコミュニケーション力、協働する力、話し合いの技術が身に付いたという自信につながっている。こうしたことが副次的にできていくことがらアンケートに挙げられていたということは、予想外の効果と考えられる。

(4) ステップ1～3を進めることによる講義内容の理解との深化拡充

ステップを辿る授業を展開した時に、一人ひとりの学生が講義内容の理解を深めたかどうかということについてのアンケート結果の考察は次の通りである。

ステップ1は小集団で話すと考えが出やすい、ステップ2では他の小集団の発表を聞き自分たちの考え以外の多くの知識を得ることができた。本授業を受けて、他の小集団の発表を聞いて、自分たちの班とは違った方法や観点で話を進めてあり、そんな見方もあるのだということが分かるなど課題の理解が進んだ。

他の集団から発表の評価をアドバイスしてくれたことで、次の活動についても自分で勉強しようという気持ちわいてきている。さらに、環境構成の大切さを学ぶためボランティアに行きたいと考えている学生や、教師への自覚が大きくなってきた学生もいる。

学生は、小集団の中でいろいろ意見が出てきたので自分の意見だけでなく幅広い考えでまとめることができている。また、自分では気が付かなかったところまでまとめられた。小集団やクラス全体で活動すると一人でするよりも、一方的に授業を受けているだけよりも理解が深まり、考えがまとまったとする学生が多くいたことから3ステップを利用して学習することの有効性が確認できた。

7 まとめ

考察で示したとおり、今回の講義で取ったステップ1、2、3を辿って個の活動や作業と小集団及びクラス集団内での学び合いができる授業を展開することで、学生は授業に参加する意欲を増して、積極的な学習になったと言える。また、個人のスキル獲得や成長が多方面で見られ、本人がそれを自覚でき、さらに意欲的に学習できるよう授業の改善に取り組んでいきたいと考えている。今後とも講義の内容を工夫改善するとともに、個と集団の作業を生かした講義展開に努め、学生の授業参加の意欲の向上と、学生一人ひとりの講義内容の理解と学習成果の深化拡充に努めていきたい。

参考文献

文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 2008年

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館 2008年

高旗正人 自立と共生の心を育てる小集団学習 黎明書房 2002年

